

議第209号「大阪都市計画都市再生特別地区の変更」

に対する

意見書の要旨

意見書 提出者	意見書の要旨
大阪市北区 在勤者	<p>大丸心齋橋店本館(1933年竣工)は、ヴォーリズ建築事務所設計の代表作というだけでなく、我が国屈指の百貨店建築として文化的価値の極めて高い作品です。昨年春にその本館の建替え報道がなされ、今年夏に正式に建替え方針が事業主側から発表されました。内容は御堂筋側の外観は保存し、内部は一部のイメージ継承に留まりかねないとのものでした。</p> <p>大同生命(1922※設計年 以下同)、矢尾政レストラン(現東華菜)(1924)、京都大丸(1926)、関西学院(1927)、大丸ヴィラ(1928)、神戸女学院(1929～33)等、代表的な作品が次々に生み出されたなかでも、大丸心齋橋店本館はヴォーリズ建築として最高傑作といえる位置にあります。そのゴシックリヴァイバルやアールデコ等の様式が煌く融合された独特の意匠は、外観はもちろんのこと内部空間にこそその真の価値を有するものです。先の戦争での空襲によって最上階7階部分の和・洋のレストラン意匠は失われてしまっておりますが、戦争やその後の変遷によって現在は存在しないこれらその他の部分も含めて大丸心齋橋店本館という建築作品であることは揺るぎない真実です。失われたものは復元修復し、その最善の状態へ可能な限り戻し近づけることこそ、あらゆる文化・芸術に對峙すべき普遍の姿勢であると考えます。</p> <p>ところが、先の建替えの発表では御堂筋側の外壁のみ保存し、内部については建替えた上で、既存建物の再利用可能な部分を取り外して使用し、そのイメージを継承したデザインに留めるという主旨の内容でした。一部分のみを新しい箇所に貼り付け、その周辺は全く違ったものに置き換える手法では、この心齋橋店本館が本来持っていた空間的価値の殆どが失われてしまいます。建築は継ぎ接ぎ、一部モニュメント的に残すことが適切な活用法では全くないにも関わらず、我が国においては外壁のみを残してその上に高層部を新築する所謂「腰巻保存」の悪しき慣例がいまもって行われています。この大丸心齋橋店本館においても同様の選択がなされようとしています。一般的な歴史的建築の場合でも、その手法が適切でないことは明らかであるのに、内部空間の筆舌しがたい魅力を持つこの大丸心齋橋店本館においてさえ、そういったことがなされようとしているのは大阪にとっても甚大な文化的損失と思われまます。</p> <p>今回の都市計画案においては、外壁保存し建替えた新館と、既存の北</p>

館とを公共の道路を跨いでその上部全てのフロアを繋げようとしているように見受けられます。この計画には前述したように、外壁を保存するというのみで文化面としての保存は達せられたとし、現況内部空間が損失されるということのみならず、復元・修復する事によって可能になるはずであった本来持っている潜在力さえも失われてしまうという懸念事項に対し、全く問題提議がなされていないように思われます。確かに優れた意匠性のある外観は長く御堂筋の都市景観に貢献してきたことと思われます。しかし都市の景観においてその外観のみを保存するだけで継承されるほど、大阪が培ってきた都市の歴史的文脈は軽く軽薄なものではないはずです。

国際的な歴史ある都市には、その場所に古くから脈々と建ち続けそれによってその企業的価値、歴史の重要性を建物によって体現してきた数々の建造物が存在します、百貨店建築もしかりです。大丸心齋橋店本館はまさにこの大阪において、いや我が国においてもその役目を担ってきた建物であり、大丸という一企業のシンボルのみならず都市においてもまさに旗艦的な存在であり続けているのです。その役目は薄皮だけを残した建替えでは、殆ど失われてしまいます。それは、今回の都市計画案に記述されている、「国際競争力を備えた拠点形成する」ということとは真逆の方向ではないのでしょうか。周辺と一体となった世界の観光拠点の形成において、なぜ観光的にも最も外国からも集客が見込めるとされる優れた建築芸術を、敢えて破壊し既存の高層棟と道路を跨いでフロアレベルを揃えて新築することが、その拠点を形成する理由であるということが理解できかねます。

以上、道路上の連結以前の論点ではありますが、この問題は大阪市の公共性、社会性の高い文化・芸術作品の存続危機という非常に重要な問題と受け止めます。大阪の財産ともいえる甚だ貴重な文化財産を、現存する内部空間とともに、失われた部分も復元・修復し、オリジナルな最も魅力ある状態に可能な限り蘇らせることこそが、言及されている国際競争力を備えた拠点の形成になることと確信いたします。

もちろん現況建物に耐震性その他の課題があることも承知しております。安全性、機能性他を確保するために犠牲にせざるを得ない部分もあるでしょう。適切かつ慎重な検討から導かれる結果は決して元来の魅力を消失してしまうものではありません。建替えではそのほとんどを失ってしまいます。安易に新築という解決方法を選ぶのではなく、保存を目標とし、課題を一つ一つ乗り越えたその先には、建替えでは決して望み

	<p>得ないより企業と都市と歴史の価値を高める、実りある結果があるはず です。北館とフロアレベルを揃えること、単純な増床方法の選択、安易 な建替えの方針に対し、今一度有効に保存していく方向性を、大阪市と しても社会的公共性をもってともに考え、ご提言いただきたく思います。 多くの建築専門家ならびに一般の大丸を愛する人々はその協力を惜し まないでしょう。</p>
<p>神戸市 在勤者 1名</p>	<p>この計画は、現在の大丸の本館と北館の間の道路の上空の大部分を建 物でつなげて、大宝寺通(幅 5.5m)の上空 2 階以上の本館と北館を建物で 接続し両館を一体化するものです。日本では、公道の上に建築すること は基本的にできないのですが、それを特例でやっってしまうという計画 であるようです。</p> <p>計画書では建物の輪郭しか描かれていませんが、北館の各階フロアー の高さと本館の各階フロアーの高さをすべて揃えることで両館を一体化 することが、この計画の最大の目的だと理解しています。現在は、本館 と北館の各階フロアーの高さが異なっています。しかしそれでは隣の北 館と各フロアーの高さとの高さが揃わず、つないだ部分に階段やスロー プが必要となり、つないだとしても細い通路で接続することになってしま い、効果的な一体化ができないでしょう。そこで本館を壊して、北 館の各階フロアーの高さと揃えて本館を設計し直す計画だと理解してい ます。</p> <p>言い換えれば、この一体化計画のせいで、歴史的文化的価値が極めて 高い本館が建て替えられることになると言えます。本館を現在のまま残 し、北館の方を壊して建て替えて、各階フロアーを現在の本館の高さに すべて揃えて繋げることもできるはずですが、北館と本館のどちらに価値 があるかという、明らかに本館です。本館こそが大丸の歴史とブラン ドを形成してきました。一方、北館は旧そごうの建物(村野藤吾の名作を 解体して建て替えたいわくつきの建物)であり、そごうのイメージが強い 建物ですから、大丸にとって価値は低いものです。なのになぜ、わざわざ そごうのイメージを守って、大丸のブランドをなくしてしまうのでし ょうか。本末転倒だと言えます。</p> <p>大阪市がこの計画を認めることにより、大阪の歴史を誇る極めて重要 な建物が壊され、永遠に失われることとなります。外壁の一部は残され るということですが、都市空間を形成しているのは、外観の見た目だけ</p>

	<p>ではありません。特に大丸心齋橋店は、内部もまた見事ではありますが、これが建て替えられれば、内部は全面的に失われます。大丸は内部の装飾を残すと言っていますが、自ら「保存」と言わずに「継承」という言葉を使っているように、そのまま残るのではなく、偽物が造られて、そこに一部のオリジナルの装飾が移設されるだけのようです。それでは、歴史的な建物を本当の意味で「継承」したことにはなりません。今後、偽物が残り続けるだけです。建物の外観だけを残すのは、動物を剥製にして残すようなものです。そこには命は宿っていません。この計画を認めることで、かけがえのない建物が失われてしまいます。</p> <p>また、この計画では、本館と北館の間にある大宝寺通の大部分がトンネル状になり、現在すでに両サイドを高いビルに挟まれた細いこの道路の環境がますます悪化することが予想されます。こんなひどい状態の市街地の道路は見たことがありません。</p> <p>大阪市にとって極めて重要な歴史的環境や良好な都市環境を維持するために、この計画全体を実施しないよう、許可しないよう、切にお願い申し上げます。</p>
<p>大阪市住吉区 在住者 1名</p>	<p>従来ある地区を拓げるといふことのようなのですが、単に今ある面積を倍にするというだけの内容な気がします。もう少し工夫した中身で検討してほしい。</p>